

144

## ジエネリック医薬品 事業の動向と展望

# ジエネリック医薬品 事業の動向と展望

産が少量多品目に陥るケースが多い。  
安定供給が必須  
また、製造コストを抑えるため、原薬の大部 分を安価に調達でき、リスクも加味しながら、業務改善命令などの行政処分も継続して発生している。後発医薬品メーカーは収益を確保しつつ、多数の品目の品質を管理し、地政学的

がともに多い企業は、正化し安定供給を確保  
再編・統合・適切な品 する観点からは、成分  
目削除によるシェアの ごとの適正な供給社数  
拡大や生産性・収益性 は、理想的には5社程  
の向上により、総合商 度である」と。  
社型の企業に成長して 競争力向上に道  
いく」と②一定の領域

**再編で過当競争から脱却**

医療財政改善へ  
ジエネリック医薬品（後発医薬品）は、新規医薬品（先発医薬品）の特許満了後に製造・販売される「先発医薬品と同等の有効性と安全性を有する医薬品」を指す。後発医薬品の新規収載時は先発医薬品の薬価の5割から7割の価格に抑えられるため、医療費の削減効果が期待される。

降、医療上の必要性がある場合などを除いて、患者の希望によりて、先発医薬品の処方を受ける場合は、先発医薬品と後発医薬品の差額の4分の1相当を患者が負担する、いわゆる「後発医薬品がある先発医薬品（長期収載品）の選定療養」が導入された。これにより医療保険財政の改善が期待されるのと同



藤安次郎

SMBCH 興証券  
産業・サステナ  
ビリティ戦略部

産が少量化多品目に陥る  
ケースが多い。

# 競争から脱却

安定供給が必須

また、製造コストを抑えるため、原薬の大部 分を安価に調達でき

する中国やインドからの輸入に依存している。ただ、パンデミックなどの有事においては原 薬確保は困難で、供給停止のリスクが存在す る。

さらに品質不正などに伴う業務停止命令や 提案している。

①数量シェアや品目分との過当競争を適

政処分も継続して発生

している。後発医薬品メーカーは収益を確保しつつ多数の品目の品質を管理し、地政学的リスクも加味しながら

業務改善命令などの行 がどもに多い企業は、正化し安定供給を確保

再編・統合・適切な品目削除によるシェアの拡大や生産性・収益性の向上により、総合商社型の企業に成長していくこと

では他をリードする領域特化型の企業は、自社の強みを生かした領域に品目を集約し、生産性を確保できる適切な規模で安定供給を担うこと③一つの成分について多くの企業が参入し、少ないシェアを持ち合う状況は、供給や生産性の向上に資するとはいはず、成

現在、日本の後発医薬品業界は200社弱の企業が存在しており、品目統合や企業間連携・協力、ひいては事業再編などの構造改革に向けた取り組みが不可欠だ。業界再編の曉には、グローバル市場でも存在感を發揮できる後発医薬品企業の誕生に期待したい。

(隔週水曜日に掲載)

無断転載・複写禁止